式 辞

極北の海和らぎ、さわやかな風が春の気配を運ぶこの佳き日。

大間町 町長 金澤 満春 様をはじめ、多数の御来賓の皆様、御臨席を賜り、保護者の皆様とともに、入学式を執り行うことができますことは、この上ない喜びであり、教職員を代表して厚く御礼申し上げます。

ただ今、入学を許可した三十七名の生徒諸君、入学おめでとう。心より歓迎いたします。

本校は、校訓「敬愛」・「自啓」・「健康」のもと、北通り地域唯一の高等学校として開校し、今年で四十六年目を迎えました。また、県より「地域校」と指定され、この地域の要望に責任をもって応えられる高校教育の実現に向け、学習環境の整備と多様な教育活動の推進に尽力しております。

さて、期待と不安、喜びと緊張で胸が一杯であろう新入生の皆さん。

現在、新型コロナウイルス感染症拡大により、全世界が危機的状況におかれています。令和2年の正月を迎えた時、いったい誰がこのような状況になることを想像したでしょう。「戦後最大の試練、または国難に直面している」とも語られるようになってきました。

これまでも人類は、このような危機を乗り越え、そのたびに発展してきました。しかしながら、人は弱いものです。その反省が生かされることなく、先の見えない不安が、人々にデマを信じ込ませ、憎悪を掻き立て、差別的行動とらせたり、自分だけは大丈夫だろうとの「正常性バイアス」に基づく行動をとらせたりしています。

一方で、医療関係の方々はもちろんのこと、関係する省庁役所等の行政、団体、民間企業の社員や個人が、それぞれの立場で、私たちの目に見えないところで、日夜、このウイルスと命がけで戦っております。

ですから、私たちは、今一度、高校で学ぶことの意味をしっかりと考える必要があります。教育基本法の前文には、「我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願うものである。我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。」と教育の理念が述べられております。

私は皆さんに、「学ぶ覚悟を決めて登校するように」とお願いしました。二度と戻ることのない15歳の春。自分で決めたこの高校生活に覚悟をもち、私たち教職員とともに「人としてあるべき道」を求めて歩みを進めましょう。

最後になりますが、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございませう。この度は、簡素な式典となりましたが、私ども教職員は、一人一人のお子様の人格を尊重し、皆が充実した高校生活を送り、学校教育目標に掲げた個々の能力をしっかりと伸ばすよう、一丸となって努力して参ります。至らぬ点もあるかと存じますが、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日御列席いただきました御来賓の皆様方に重ねて感謝の意を表しますとともに、あらためまして新入生の皆さんの高校生活が実り多いものとなることを祈念し、式辞といたします。

令和二年四月七日

青森県立大間高等学校
校長 森田 勝博